サザンクス筑後「木のおもちゃ作り教室」
～3 年ぶりの通常開催～

例年、夏休みの恒例行事となっていたサザンクス筑後でのネイチャークラフトは2019 年以来、通常開催は 3 年ぶりとなった。

2020 年はコロナの影響で中止。2021 年もコロナの影響はあったが、時期をずらして開催することに。ところが、大雨洪水の影響で開催が難しくなった。が、子どもたちの要望が強いため、キットを配る方向で対応することにした。そのキットは 1)動物のどんぐりクラフト、2)壁掛けの 2 種類で計 110 個。後日、施設まで取りに来てもらった。

今年は予定通り 7 月 30 日と 31 日の両日、開催することができた。30 日は 58 名、31 日は 63 名の子どもたちを迎え、それに父兄を加えると 240 名余が参加してくれた。

低学年が多いことから、グルーガンを使った経験がなく、先ずは安全指導。利き手の反対側には手ぶくろをはめ、火傷防止に努めて貰った。ところが、残念なことに 2 名程、べったりと熱い接着剤がついてしまった。一人は親指付け根、もう一人は腕付近に付き、かなりの痛みを伴った様子。うち一人は我慢できず、家に帰ることに・・・。

このグルーガン、とにかくすぐにくっつく。木工ボンドはくっつくまで時間がかかり、到底時間内に作品を仕上げることは出来ない。その利便性からグルーガンはクラフトでは外せない存在なのだが、痛みを伴うことがある。

その轍を踏ませないよう、翌日は両手に手袋をはめて貰い、前日の失敗談を強くアピールした。そうしたらどうだろう？一人もやけどを負うことがなかった。

木の実の形の違いや手触りは素手でないと掴めない。でも、安全性を考慮すると感触は低下してしまう。できるだけ、木の実などを集める時は素手で、作業する時は手袋をはめるよう指導する。

前日に帰った子も再び元気に現れ、作り残しを完成させることができた。

作品自体はいつもより、大胆で完成度が高いように思え、材料集めに奔走した甲斐があったというもの。また、来年も会えることを願う。

参加スタッフ：西田、田川、高田、諸石　（報告：諸石）





